

全国学力・学習状況調査

碓井小学校

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

前年度の結果から1ポイントアップ

【国語】A:98 B:99

【算数】A:100 B:99

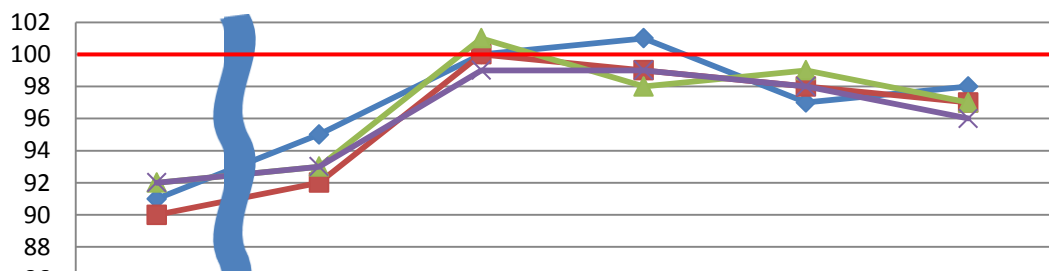
3.指標に向けての取組

○全国学力・学習状況調査の過去問題を家庭学習などに計画的に取り入れ、練習させる。
○福岡県学力実態調査結果と同時に配付された練習問題に各自取り組ませ、自分の課題克服に向けた取組を行う。

4.調査結果(全国の平均正答数を100とした標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	98	97	97	96
嘉麻市	98	98	99	98
全国	100	100	100	100

推移



	22年実施	25年実施	26年実施	27年実施	28年実施	29年実施
◆国語A	91	95	100	101	97	98
■国語B	90	92	100	99	98	97
▲算数A	92	93	101	98	99	97
×算数B	92	93	99	99	98	96

5.各学校における分析

【国語】

A問題では、手紙の後付けに必要な日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を選ぶ問題や同音異義語の漢字を書く問題の正答率が低かった。B問題では、目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く問題や理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題の正答率が低かった。

【算数】

A問題では、 $5 \div 9$ の商を分数で表す問題や平行四辺形の半分の面積である三角形を選ぶ問題、二次元表の合計欄に入る数を書く問題の正答率が低かった。B問題では、平均の求め方を記述する問題や基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題の正答率が低かった。

6.各学校における今後の取組

○授業改善(算数科学習において、図や表等を使った主体的な問題解決。協働的なペア交流や全体交流の設定。)

○家庭学習の充実(質と量に6年間の系統性をもった家庭学習。課題克服のための問題選定。休みの日の家庭学習の充実。)
「 $10 \times \text{学年} + 10$ 」分の家庭学習時間を9割以上の児童が確保できるように、また、朝の提出率も9割以上になるように指導し、強化週間の設定によって検証する。

○家庭との連携(基本的生活習慣の確立。家庭学習・自学の習慣化。)

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を実施する。また、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修における授業参観指導を実施する。

◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。

◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個の学習課題に応じた週末課題の提示を進める。